

誓いの言葉



●二十歳代表●
岡本 真奈 さん
(河野地区)

本日、私たちが二十歳としての第一歩を踏み出すにあたり、このような盛大な式典を挙げていただきましたこと、心より感謝申し上げます。また、お祝いや激励のお言葉を賜りました吉田町長をはじめ、ご来賓の皆様、本日ご出席いただきました皆様方に二十歳の代表といたしまして深く御礼申し上げます。約12年ぶりに再会することができた旧友と共に、故郷である浪江町で門出を迎えることができ大変感激しております。

この20年間を振り返ると、決して楽しいことばかりではなく、辛いことや悲しいことも多くありました。中でも人生が大きく変わる原因となった東日本震災は、一番に挙げられるのではないのでしょうか。思い描いていた未来が奪われ、友人や恩師との突然の別れと、大好きな故郷を離れなければならない現実を受け入れることが困難でした。避難先での慣れない生活に戸惑い、漠然とした不安を抱えて過ごした日々を思い返すと今でも胸が痛みます。そんなとき、いつも変わらず支えてくれたのは両親の存在でした。私たちを守るために、自身も不安を抱きながらもそれを感じさせぬよう手を取り導いてくれました。

その存在はとて偉大なものであり、どんなときも固い絆で結ばれているのだと実感していました。また、故郷である浪江町の存在も私たちにとって大きな支えとなりました。本日、私たちがこの場に立っているのは、浪江町で過ごしたかけがえのない日々があるからだだと強く思います。小学校への通学路や校歌、請戸川の桜や新町通りでの十日市など、一つ一つの思い出が鮮やかに蘇り今でもこの胸に刻まれています。乗り越えられないような大きな壁にぶつかったとき、浪江町で過ごした日々を思い出し、心の中で故郷に帰り、乗り越えてきました。私たちに、浪江町は心の拠り所であり、変わらず私たちを受け入れてくれる場所です。今まで支えてくれた両親への感謝と故郷への揺るがない思いを胸に、これまで受けてきた恩を返していけるよう精進してまいります。

新型コロナウイルスが流行し始めて3年が経ちましたが、今でも変わらずその猛威を振っているのが、今後どのようになり社会が変わっていくのか、先行きの見えない不安な状況が常にあります。そのような不安に向き合いつながら、私たちは各々の道を歩んでいかなければなりません。これからの時代を担っていく世代としての自覚と様々な困難を乗り越えてきた自信を持ち、日々励んでまいります。最後になりましたが、この20年間そばで支えてくれた方々の愛情を受け止め、感謝の意を表明するとともに、今後の人生を強く逞しく生きていく決意を申し上げ、誓いのことばといたします。



浪江に集う二十歳

1月7日(出)、秋桜アリーナ(浪江町地域スポーツセンター)において二十歳を祝う会が開催されました。

会場は振袖やスーツに身を包んだ昔懐かしの旧友との再会で大賑わい。近況報告や自然と溢れ出る思い出話に笑い声が響きました。

式典では、代表の岡本真奈さんが「今まで支えてくれた両親への感謝と故郷への揺るがない思いを胸に恩を返していきたい」と誓いの言葉を述べました。

式典に参観した小・中学校の恩師5人や家族らは、大人としての第一歩を歩む参加者たちの晴れやかな門出を祝いました。



二十歳を祝う会の様子はなみえチャンネルで公開中



おめでとうございます2023
二十歳を祝う会
輝かしい未来に幸多かれ

浪江町の二十歳	
生まれ年	平成14年度
対象者数	189人
出席者数	29人
浪江地区	11人
幾世橋地区	4人
内訳	請戸地区 2人
河野地区	7人
津島地区	5人



吉田栄光町長と肘タッチをする石井京輔さん



二十歳を祝う会
4人一緒に「はいチーズ!」



二十歳を祝う会
令和5年1月7日
久しぶりの再会を喜び、笑顔が華やか
渡邊なつみさん、根本菜摘さん、佐々木涼さん、遠藤優希さん



晴れ姿を見守るご家族の皆さん

二十歳の決意

皆さんの夢や抱負を
インタビュー

水田 和希さん
ギネス記録に載るまで
長生きします！

網谷 英二さん
平和に生きる！

蛭田 凱翔さん
これからも楽しく
過ごす！

清水 郁弥さん
お酒に弱れず
健康に気を付けます！

横山 武尊さん
色々な人と関われる仕事に
就きたいです！

今野 実永さん
大学で学んだことを
津島の復興に繋げたい！

門馬 右恭さん
これからも元気に
過ごします！

中島 綾香さん
薬剤の研究者に
なる！

今野 世実さん
夢に向かって
猪突猛進

国分 菜々子さん
健康に過ごして、
たくさん稼ぎます！

人生の節目を迎え

入学に進学し、目標に向かって、勉学に励む人や社会人として自立し、自分の生活を始めている人など、それぞれが自分の道を歩み、将来をしっかり見据えています。

その中でも、清水郁弥さんは「故郷で受けた恩を胸に、今後は自分が被災者を助ける」と、強い決意を胸に、陸上自衛隊に入隊しました。

清水さんが陸上自衛隊を目指すきっかけとなったのは、東日本大震災による恐怖と転々とした避難生活に不安を抱く中、多くの人を助け、救えきれない支援をしている自衛隊の頼もしい姿でした。

昨年31日(土)未明に山形県鶴岡市で発生した土砂崩れの現場では、土砂の撤去や行方不明者捜索の任にたった清水さん。災害現場は土砂で足の踏み場もなく、泥だらけになりながらも「住民の生活を取り戻すために必死でした」と、振り返ります。



吉田栄光町長と熱い握手を交わす清水郁弥さん

皆さんは浪江の宝

吉田栄光町長は式辞の中で「当時、小学2年生だった皆さんが、友達と離れ離れになり、避難先を転々とした日々は辛いかわげがありません。多くの困難を乗り越え、今日を迎えたことでしょう。

幼い日々の大切な時間を過ごした浪江町の経験は、これからの皆さんの人生に大きな軸として残っていくはず。人生には山や谷がありますが、努力を惜しまず、自分を信じて未来を切り開いていってください。どこにいても皆さんは、浪江の宝です」と、幸せを祈るエールを送りました。

町長からの言葉を胸に、皆さんが自分自身の力で、人生を歩み続けていくことを応援しています。

あなたを想う

「おめでとう」と同じくらい「ありがとう」が溢れた二十歳を祝う会。あなたが育った故郷には、あなたを想う人がいる。

●浪江小学校 ●
2年1組担任
武内 弘子

二十歳を祝う会の連絡を頂き、小さかった皆さんを思い出しながら、今の姿を想像しています。

二十年、皆さんは新しい場所です。それぞれの道を歩んできました。それはすごい事です。

これから先も、歩いたり、走ったり、時には立ち止まったり、遠回りしたりしながら、自分の道を進んでいってください。

多くの経験を重ねた皆さんだから、これからも、優しく、強く、楽しく生きてください。応援しています。

●幾世橋小学校 ●
2年担任
大和田知恵子

幾世橋小学校と一緒に過ごしていた頃、あどけなくやんちゃで、可愛い2年生だったみなさんが、もう二十歳を迎えるのです。本当に、おめでとう。あの日、から、みなさんはそれぞれの場所で、色々な思いを抱えながらがんばってきたこと。人生は、山あり谷ありです。社会人として世の中に出れば、楽しいこともたくさんありますが、どんな時も前向きに努力し、周りの人も自分も幸せにする生き方をしてほしいと、心から願っています。

●浪江中学校 ●
3学年主任
遠藤 正一

二十歳になられた皆さん、おめでとうございます。今の皆さんがあるのは、家族をはじめ、周りの人達の支えがあったからです。感謝の気持ちを忘れず、これからは大人として社会に貢献し、自らの手で未来を切り拓いていってください。特に、ふるさと浪江町の復興は皆さんの力にかかっています。地元で力を尽くす人。故郷を離れても、故郷を思って努力している人。場所や方法は違っても、浪江町に対する思いは一緒だと思います。皆さんと浪江町の益々の発展をお祈りしています。

●浪江中学校 ●
3学年担任
大河内 明子

二十歳を迎えた皆さん、本日はおめでとうございます。浪江中学校を巣立って5年・・・

心身共に大きく成長されたことと思います。中学校では、浪江の方々から郷土料理を学び、「ふるさと創造学」で震災後初めてみんなで浪江を訪れ・・・とあなたたちのルーツを学ぶ貴重な時間がありました。離れていてもみなさんをつなぐたくさんの根 (roots) は一つにつながっています。太い根を張り、それぞれの道で大輪を咲かせられることをお祈りしています。

●浪江中学校 ●
特別支援学級担任
柴口 正武

20歳おめでとうございます。

単斗君をはじめとする5人の「浪江中」卒業のみならず、浪江中での3年間、または1年間は、卒業してからの5年間でどう生かされてきたでしょうか。

そして、これからの人生にどう生かそうとしていますか。みなさんが卒業した浪江中ではもうありませんが、みなさんが浪江中で過ごした時間は永遠に残ります。

これまでの大事な1ページとしてこれから生きていく「糧(かて)」に力強く人生を歩んでください。